

## 南信州アルプスフォーラム勉強会報告書

2019年9月5日

「リニア&いいだの広域まちづくりを考える」プロジェクト部会

テーマ：【介護制度とこれからの地域像を探る】

講師：橋上 信久 氏

（医療法人健生会 常務理事、アルテンハイム会地の里 施設長）

【参加者】 渡邊武彦、田中久雄、篠田忠尚、沖村賢司、木下裕介、岡島正和、春原清、

【日 時】 2019年9月5日

【場 所】 本町トップヒルズ りんご庁舎3階第3会議室

【内 容】

- ・介護保険制度の仕組み（別紙参照）
- ・地域の現状
- ・今後の展開
- ・これからの高齢化社会の中のまちづくりは
- ・介護保険はどんな保険
- ・自己負担の割合
- ・介護保険の1カ月の上限
- ・老人ホームの種類
- ・society5.0の構造、今後の国の動き（別紙参照）

【考 察】

介護制度の成立ちから現在への変遷、そして今後の方向性を上記の視点でご説明を頂きました。

そこから浮き彫りとなる都会と田舎での介護制度による違い、介護の現場における働き方、介護利用者増加による介護職員不足、雇用に関する多くの問題提起をお聞きしながら、単純な発想で後期高齢者を街に受け入れて街の規模を大きくしても2025年に団塊の世代の75歳以上の人口が急速に増加し、それに伴い要介護率が高くなり、それを支える介護保険料を負担する人口の問題、また介護保険制度の仕組みの中で、国、行政の取り組みなど深い部分をお聞きできました。

今後、南信州の直面する高齢化社会をどのように捉え、考えていくのか、南信州アルプスフォーラムとしてもこれからのまちづくりを考えていくうえで重要なファクターとなる切り口での勉強会となりました。